

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600063		
法人名	有限会社 夢のおと		
事業所名	グループホーム明日風 (ユニット名:来楽)		
所在地	大分県臼杵市大字搔懐27番地		
自己評価作成日	平成27年10月27日	評価結果市町村受理日	平成28年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成27年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型サービス事業所として”地域とともに”と”地域貢献”を念頭に置いています。また、入居者様においては”繋がり続ける”ことの支援。家族や友人・地域との関係性を保つための支援。グループホーム明日風便りでは、一人ひとりの家族へ2か月に1回写真つきのお便りを配布しています。遠方にお住まいのご家族様へ日頃の様子等お伝えしています。また運営推進会議では毎回利用者家族のメンバーを代えて事業所の取り組みや現状の理解をいただけるようにしています。また今年度より利用者様と職員が1対1で行う個別外出を企画実施し、共同生活の中にも”個”を尊重した支援を開始しています。今年度は特に地域貢献の一環として”お茶の間サロン”を週1回開催し交流ホールを開放したり、職員の研修機会を年間通じて多く設けることに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・周囲には林や田園風景が広がり、居室の窓からも季節の移ろいを感じる事が出来る。
- ・運営推進会議の参加者が多く、それぞれの専門分野の意見や提案をもらっている。
- ・浴室に一般浴槽、リフト浴槽を設置しており、利用者の身体状況に合わせて、湯舟に浸かれる支援を行っている。職員は、入浴を嫌がる人の心情に寄り添いながら、安心して入浴できるような工夫を行っている。
- ・2階の交流ホールで、地域の人が集う「お茶の間サロン」を開催するなど、地域貢献を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	繋がり続けることを支援するために、家族・友人・地域などとの関係性が良好に保てるよう現状報告や様子が確認できるツールを活用している。	玄関やリビング、事務室など、目に触れる場所に掲示して、理念を意識したケアの実践に努めている。採用時に管理者より理念を説明し、折に触れ理念に沿ったケアについて話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はまだ活発ではないが、地域の資源を活用する(商店・理髪店など)ことで地域の一員として受け入れていただけるよう努めている。	散歩の途中で、地域の人と挨拶を交わすなど、日常的な交流をしている。小学校のふれあい祭りや運動会に招待してもらっている。事業所2階で、地域の方の交流の場として「お茶の間サロン」を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年4月より週1回”お茶の間サロン明日風”を開催し地域の方々の集える場所作りを実践している。その中で認知症予防の脳トレなどとりいれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回テーマを掲げて会議開催をしている。その中で出た意見を基に検索時基本情報の作成をしたり、感染対策・防災対策のマニュアル見直し等に役立てている。	毎回12～13名の参加があり、防犯、防災、介護保険などそれぞれの専門分野を活かして、活発な話し合いが行われている。出された意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議出席していただきながら、事業所の実情や課題等お伝えしている。また担当者を訪ねて随時相談等が出来る関係性が築けていると評価する。	市担当者は毎回、運営推進会議に出席している。事業所の実情を伝えながら相談したり、広域会議への参加や研修情報をもらうなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する職員全員を対象にした研修はまだ実施できていないため、全職員が正しく理解しているとは言えない。玄関等施錠に関しては利用者様の安全性を優先した取組を行っている。	玄関が交通量の多い道路に面している為、利用者の安全を考慮して、共有空間の扉を常時施錠している。身体拘束しないケアの大切さについて、自主研修は行っているが、職員全体の研修は行われていない。	全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を学び、閉塞感のない暮らしの大切さの理解を深めていく事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する全職員を対象にした研修は実施できていないが、事業所内での虐待に対する防止には注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する全職員を対象とした研修実施は出来ていない。活用に関しても支援実績なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者による契約時の説明を実施し、同意納得を得ている。不安や疑問点に関しても出来るだけ丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の席では意見を述べる機会を作り、また日常的には玄関口にご提案箱を設置し意見要望を受け付けるようしている。	家族の面会が多く、直接意見をもらうことが多い。遠方の家族とはメールで連絡を取り合いながら、いつでも意見をもらえるようにしている。出された意見は職員に伝え、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員に対する管理者による個別面接を行い、運営や業務に関する意見を聞く機会を設けている。また、内容を吟味しながら反映を心掛けている。	職員の意見を聞く場として、年1~3回個別面接を行っている。タオルスチーマーの設置や備品の配置換えなど、出された意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給時には勤務状況や実績・貢献度などが勘案される。代表者による現状確認の為の巡回が行われ職場環境の整備に役立っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報提供や研修機会の企画などで職員育成の取り組みが行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携研修事業等を通じて同業者との交流の機会やネットワーク作り勉強会等の機会を作っている。質の向上やモチベーションを高めるための取り組みをしている。グループホーム協会への加入も行って		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供に当たっては、傾聴を実践しながら本人様の意向や意志の確認を慎重に行っていく。強要強制は行わないことで信頼関係の構築を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接から家族に寄り添う姿勢で傾聴する。提供できること支援出来ることなど示しながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が望んでいることを見極め、それを叶える為に一番有効な方法を一緒に検討していく。専門職としての持てる情報を駆使し出来るだけ負担の少ない方法を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で手伝っていただけることを探し、していただいたことに対して感謝の気持ちを表していく。お互いが助けあっているという感覚が失せないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にとりながら、家族に協力していただけることを提案していく。また家族の方にも参加していただけるイベントの企画で共に支えているということを実感していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問希望者に対してはオープンな姿勢を取っている。記念写真撮影や面会者とのゆっくりした時間が過ごせるよう、場所の提供や円滑な会話の為の支援を行っている。	自宅や港、昔の職場など、本人の馴染みの場所を日々の会話の中から聞き、個別に出かける支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流が円滑に行われるように、関係性の観察を行い、席の配置や共通の会話が出来るとような投げかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても、相談などにはいつでも応じるようにしている。また面会にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いなどの把握に努めてはいるが、現実的でない場合は家族の希望や思いを重視してしまっている。	日々の暮らしの中から、本人の思いや意向を聞き取っている。また、これまでの生活歴や家族からの情報を基に本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで基本的な情報収集を行った上で、さらに日常的な会話の中で少しずつ情報量を増やしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の把握を毎朝行い、状態によって1日の過ごし方を変えている。残存機能に対する評価等は日々の状態観察や職員からの情報で現状把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今年9月よりケアカンファレンスの事前アンケートを取り全職員の評価を参考にした計画作りに取り組んでいる。	モニタリングを6か月ごとに行っている。全職員で本人の心身の状況を「事前アンケート」に記入し、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は総合記録表に記載している。気づきや工夫に関しては個別記録ではなく申し送りノートを活用し介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況、その時々生まれるニーズに対しては、関係者への連絡や面接によって十分話し合い、適切な支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内の生活を安全で豊かなものとなるよう努めているが、まだ地域資源を把握し活用できるまでにはなっていない。今後の課題として検討中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は円滑に行えていると評価している。定期的な往診や緊急時の相談、随時の受診支援など家族との連携も含め適切な医療を受けられるよう努めている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。訪問看護ステーションと契約しており、医療機関や薬局、家族と情報を共有しながら連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員配置を今年8月より行っている。医療連携加算を取得し職種間の協働は行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時の医療機関との情報交換は円滑に行っている。日常的に医療機関との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、入居前の相談面接で意向を伺っている。実際その時期になった時には随時確認を取り合いながら適切な支援ができるよう努めている。地域の関係者とチームで支援を行った実績は無い。	重度化した場合について、入居時に口頭で説明している。状態の変化に伴って、事業所の出来ること出来ないことを書いた書類を渡し、話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応の方法については職員対象に伝達をしている。また事業所の分かりやすい場所に手順を書いた表を設置している。年2回ほどの研修を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練はこれまで年2回実施。夜間想定避難訓練はまだ行っていないが、今後実施予定。地域との協力体制作りは今後の課題としている。	日中の火災を想定した訓練を行っている。夜間の避難訓練はDVDを見て研修しているが、実際の訓練は行われていない。地域の災害時のネットワーク作りを検討している。	昼夜を問わず、利用者が安全に避難できる方法を職員が身につけるよう、様々な想定避難訓練を行うことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格尊重した言葉かけに関しては、フレンドリーになり過ぎた言葉かけもある。親しみを込めた言葉かけの中にも敬う気持ちを忘れないようにと呼びかけているが、言葉かけに関しては課題が多いと評価する。	管理者は、月1回のグループホーム会議で、利用者の尊厳や誇りを傷つけないような言葉かけや対応を行うことを職員に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事もまず本人様への意志確認を重視している。簡単な意思決定が出来るものに関しては意向を確認させていただいている。思いや希望を表すことができるよう日常会話がゆっくりとできる時間作りが課題となっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	イベント参加や外出などに関しては、本人様の意向を確認している。閉じこもり気味の方に関しては少し積極的にお誘いをしている。希望に沿った支援をしたいが、機能低下が顕著な場合希望に添えないことも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口腔ケア・整容・更衣に関しては毎日きちんとできるように支援出来ていると評価する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る力のある方には役割を持っていただきお手伝いして頂いているが、毎食の一緒に準備などすることはできていない。	職員が手作りした食事を提供している。月に1回、バースデーケーキやあじ寿司等、手作りを楽しむ機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総合記録表に食事や水分などの摂取量が記録されている。状態や嗜好により他者と変えて提供し摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回口腔ケアの介助や声掛けを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握することで、トイレへの声掛けのタイミングや失敗しない為の工夫など職員間で検討している。リハビリパンツから布パンツに移行できた方も数名おられる。	一人ひとりの排泄パターンをチェックリストで把握している。本人の様子や時間を見計らって声をかけ、自立に向けた支援を行っている。プライバシーに配慮した声掛けや支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成しており、便秘への注意を払っている。ヨーグルトの提供や水分量の調整・服薬支援など個別対応実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は14:30～夕食前まで予定表を作って入浴していただいているが、個別対応で毎日声掛けして入浴していただいている方もいる。予定日でなくても入浴希望が強い方には随時対応しているが、時間帯は概ね決めている。	リフト浴、普通浴と2つの浴槽があり、本人の身体状況に合わせて、湯舟に浸かれる支援を行っている。入浴を嫌がる人には、気持ちに寄り添った声掛けを行い、入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由に休むことはできるよう支援はできている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルの中に服薬情報を入れており、各自確認ができる状況にしているが、薬に関する関心度には個人差があり全員が理解をしているとは言い難い。特に服薬状況に変化のあった分に対しては申し送りノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来るだけ充実した日々を過ごせるようにと、その方の生活歴などを参考にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年4月より本人様の希望を把握し、実現できるよう個別外出支援を行っているが、頻度は少ない。	紅葉見物などのドライブをしている。今年度は、個別の外出支援に力を入れ、約1か月に、2人程の希望する場所へ出かけている。屋上のテラスや庭、近所を散歩することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物ドライブなどではこずかい程度のお金を所持していただき、自由に買い物をしていただくことがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望により取次の形で利用している。手紙のやり取りは受け取ることはあるが返事を出すことはできていない。暑中見舞いや年賀状を作成し出すことはしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、居心地の良い空間となるよう配慮している。	リビングに面した中庭に、地域行事で使用した竹の灯りを飾ったり生花を飾る等、季節を楽しむ工夫をしている。台所から調理中の匂いや音がして、五感への心地よい刺激となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2~3人掛けのソファや掘炬燵を設置して思い思いに過ごせる場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を持ち込めるようにしている。写真や絵画・観葉植物などでもその方らしい部屋にしていただき、落ち着いた環境への配慮に努めている。	生け花等、レクリエーション活動で作った本人の作品を自室に飾っている。職員がこまめに居室の清掃を行い、清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンを中央部に配置しいつでも手伝っていただけるようにしている。トイレの表示や中庭の設置で一人ひとりの力を活かせる環境作りに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600063		
法人名	有限会社 夢のおと		
事業所名	グループホーム明日風 (ユニット名:笑楽)		
所在地	大分県臼杵市大字搔懐27番地		
自己評価作成日	平成27年10月27日	評価結果市町村受理日	平成27年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型サービス事業所として”地域とともに”と”地域貢献”を念頭に置いています。また、入居者様においては”繋がり続ける”ことの支援。家族や友人・地域との関係性を保つための支援。グループホーム明日風便りでは、一人ひとりの家族へ2か月に1回写真つきのお便りを配布しています。遠方にお住いのご家族様へ日頃の様子等お伝えしています。また運営推進会議では毎回利用者家族のメンバーを代えて事業所の取り組みや現状の理解をいただけるようにしています。また今年度より利用者様と職員が1対1で行う個別外出を企画実施し、共同生活の中にも”個”を尊重した支援を開始しています。今年度は特に地域貢献の一環として”お茶の間サロン”を週1回開催し交流ホールを開放したり、職員の研修機会を年間通じて多く設けることに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

来楽と同様

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	繋がり続けることを支援するために、家族・友人・地域などとの関係性が良好に保てるよう現状報告や様子が確認できるツールを活用している。	玄関やリビング、事務室など、目に触れる場所に掲示して、理念を意識したケアの実践に努めている。採用時に管理者より理念を説明し、折に触れ理念に沿ったケアについて話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はまだ活発ではないが、地域の資源を活用する(商店・理髪店など)ことで地域の一員として受け入れていただけるよう努めている。	散歩の途中で、地域の人と挨拶を交わすなど、日常的な交流をしている。小学校のふれあい祭りや運動会に招待してもらっている。事業所2階で、地域の方の交流の場として「お茶の間サロン」を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年4月より週1回”お茶の間サロン明日風”を開催し地域の方々の集える場所作りを実践している。その中で認知症予防の脳トレなどとりいれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回テーマを掲げて会議開催をしている。その中で出た意見を基に検索時基本情報の作成をしたり、感染対策・防災対策のマニュアル見直し等に役立てている。	毎回12～13名の参加があり、防犯、防災、介護保険などそれぞれの専門分野を活かして、活発な話し合いが行われている。出された意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議出席していただきながら、事業所の実情や課題等お伝えしている。また担当者を訪ねて随時相談等が出来る関係性が築けていると評価する。	市担当者は毎回、運営推進会議に出席している。事業所の実情を伝えながら相談したり、広域会議への参加や研修情報をもらうなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する職員全員を対象にした研修はまだ実施できていないため、全職員が正しく理解しているとは言えない。玄関等施錠に関しては利用者様の安全性を優先した取組を行っている。	玄関が交通量の多い道路に面している為、利用者の安全を考慮して、共有空間の扉を常時施錠している。身体拘束しないケアの大切さについて、自主研修は行っているが、職員全体の研修は行われていない。	全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を学び、閉塞感のない暮らしの大切さの理解を深めていく事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する全職員を対象にした研修は実施できていないが、事業所内での虐待に対する防止には注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する全職員を対象とした研修実施は出来ていない。活用に関しても支援実績なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者による契約時の説明を実施し、同意納得を得ている。不安や疑問点に関しても出来るだけ丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の席では意見を述べる機会を作り、また日常的には玄関口にご提案箱を設置し意見要望を受け付けるようしている。	家族の面会が多く、直接意見をもらうことが多い。遠方の家族とはメールで連絡を取り合いながら、いつでも意見をもらえるようにしている。出された意見は職員に伝え、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員に対する管理者による個別面接を行い、運営や業務に関する意見を聞く機会を設けている。また、内容を吟味しながら反映を心掛けている。	職員の意見を聞く場として、年1~3回個別面接を行っている。タオルスチーマーの設置や備品の配置換えなど、出された意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給時には勤務状況や実績・貢献度などが勘案される。代表者による現状確認の為の巡回が行われ職場環境の整備に役立っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報提供や研修機会の企画などで職員育成の取り組みが行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携研修事業等を通じて同業者との交流の機会やネットワーク作り勉強会等の機会を作っている。質の向上やモチベーションを高めるための取り組みをしている。グループホーム協会への加入も行って		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供に当たっては、傾聴を実践しながら本人様の意向や意志の確認を慎重に行っていく。強要強制は行わないことで信頼関係の構築を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接から家族に寄り添う姿勢で傾聴する。提供できること支援出来ることなど示しながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が望んでいることを見極め、それを叶える為に一番有効な方法を一緒に検討していく。専門職としての持てる情報を駆使し出来るだけ負担の少ない方法を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で手伝っていただけることを探し、していただいたことに対して感謝の気持ちを表していく。お互いが助けあっているという感覚が失せないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にとりながら、家族に協力していただけることを提案していく。また家族の方にも参加していただけるイベントの企画で共に支えているということを実感していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問希望者に対してはオープンな姿勢を取っている。記念写真撮影や面会者とのゆっくりした時間が過ごせるよう、場所の提供や円滑な会話の為の支援を行っている。	自宅や港、昔の職場など、本人の馴染みの場所を日々の会話の中から聞き、個別に出かける支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流が円滑に行われるように、関係性の観察を行い、席の配置や共通の会話が出来るとような投げかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても、相談などにはいつでも応じるようにしている。また面会にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いなどの把握に努めてはいるが、現実的でない場合は家族の希望や思いを重視してしまっている。	日々の暮らしの中から、本人の思いや意向を聞き取っている。また、これまでの生活歴や家族からの情報を基に本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで基本的な情報収集を行った上で、さらに日常的な会話の中で少しずつ情報量を増やしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の把握を毎朝行い、状態によって1日の過ごし方を変えている。残存機能に対する評価等は日々の状態観察や職員からの情報で現状把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今年9月よりケアカンファレンスの事前アンケートを取り全職員の評価を参考にした計画作りに取り組んでいる。	モニタリングを6か月ごとに行っている。全職員で本人の心身の状況を「事前アンケート」に記入し、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は総合記録表に記載している。気づきや工夫に関しては個別記録ではなく申し送りノートを活用し介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況、その時々生まれるニーズに対しては、関係者への連絡や面接によって十分話し合い、適切な支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内の生活を安全で豊かなものとなるよう努めているが、まだ地域資源を把握し活用できるまでにはなっていない。今後の課題として検討中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は円滑に行っていると評価している。定期的な往診や緊急時の相談、随時の受診支援など家族との連携も含め適切な医療を受けられるよう努めている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。訪問看護ステーションと契約しており、医療機関や薬局、家族と情報を共有しながら連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員配置を今年8月より行っている。医療連携加算を取得し職種間の協働は行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時の医療機関との情報交換は円滑に行っている。日常的に医療機関との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、入居前の相談面接で意向を伺っている。実際その時期になった時には随時確認を取り合いながら適切な支援ができるよう努めている。地域の関係者とチームで支援を行った実績は無い。	重度化した場合について、入居時に口頭で説明している。状態の変化に伴って、事業所の出来ること出来ないことを書いた書類を渡し、話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応の方法については職員対象に伝達をしている。また事業所の分かりやすい場所に手順を書いた表を設置している。年2回ほどの研修を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練はこれまで年2回実施。夜間想定避難訓練はまだ行っていないが、今後実施予定。地域との協力体制作りは今後の課題としている。	日中の火災を想定した訓練を行っている。夜間の避難訓練はDVDを見て研修しているが、実際の訓練は行われていない。地域の災害時のネットワーク作りを検討している。	昼夜を問わず、利用者が安全に避難できる方法を職員が身につけるよう、様々な想定避難訓練を行うことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格尊重した言葉かけに関しては、フレンドリーになり過ぎた言葉かけもある。親しみを込めた言葉かけの中にも敬う気持ちを忘れないようにと呼びかけているが、言葉かけに関しては課題が多いと評価する。	管理者は、月1回のグループホーム会議で、利用者の尊厳や誇りを傷つけないような言葉かけや対応を行うことを職員に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事もまず本人様への意志確認を重視している。簡単な意思決定が出来るものに関しては意向を確認させていただいている。思いや希望を表すことができるよう日常会話がゆっくりとできる時間作りが課題となっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	イベント参加や外出などに関しては、本人様の意向を確認している。閉じこもり気味の方に関しては少し積極的にお誘いをしている。希望に沿った支援をしたいが、機能低下が顕著な場合希望に添えないことも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口腔ケア・整容・更衣に関しては毎日きちんとできるように支援出来ていると評価する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る力のある方には役割を持っていただきお手伝いして頂いているが、毎食の一緒に準備などすることはできていない。	職員が手作りした食事を提供している。月に1回、バースデーケーキやあじ寿司等、手作りを楽しむ機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総合記録表に食事や水分などの摂取量が記録されている。状態や嗜好により他者と変えて提供し摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回口腔ケアの介助や声掛けを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握することで、トイレへの声掛けのタイミングや失敗しない為の工夫など職員間で検討している。リハビリパンツから布パンツに移行できた方も数名おられる。	一人ひとりの排泄パターンをチェックリストで把握している。本人の様子や時間を見計らって声をかけ、自立に向けた支援を行っている。プライバシーに配慮した声掛けや支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成しており、便秘への注意を払っている。ヨーグルトの提供や水分量の調整・服薬支援など個別対応実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は14:30～夕食前まで予定表を作って入浴していただいているが、個別対応で毎日声掛けして入浴していただいている方もいる。予定日でなくても入浴希望が強い方には随時対応しているが、時間帯は概ね決めている。	リフト浴、普通浴と2つの浴槽があり、本人の身体状況に合わせて、湯舟に浸かれる支援を行っている。入浴を嫌がる人には、気持ちに寄り添った声掛けを行い、入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由に休むことはできるよう支援はできている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルの中に服薬情報を入れており、各自確認ができる状況にしているが、薬に関する関心度には個人差があり全員が理解をしているとは言い難い。特に服薬状況に変化のあった分に対しては申し送りノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来るだけ充実した日々を過ごせるようにと、その方の生活歴などを参考にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年4月より本人様の希望を把握し、実現できるよう個別外出支援を行っているが、頻度は少ない。	紅葉見物などのドライブをしている。今年度は、個別の外出支援に力を入れ、約1か月に、2人程の希望する場所へ出かけている。屋上のテラスや庭、近所を散歩することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物ドライブなどではこずかい程度のお金を所持していただき、自由に買い物をしていただくことがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望により取次の形で利用している。手紙のやり取りは受け取ることはあるが返事を出すことはできていない。暑中見舞いや年賀状を作成し出すことはしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、居心地の良い空間となるよう配慮している。	リビングに面した中庭に、地域行事で使用した竹の灯りを飾ったり生花を飾る等、季節を楽しむ工夫をしている。台所から調理中の匂いや音がして、五感への心地よい刺激となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2~3人掛けのソファや掘炬燵を設置して思い思いに過ごせる場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を持ち込めるようにしている。写真や絵画・観葉植物などでもその方らしい部屋にしていただき、落ち着いた環境への配慮に努めている。	生け花等、レクリエーション活動で作った本人の作品を自室に飾っている。職員がこまめに居室の清掃を行い、清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンを中央部に配置しいつでも手伝っていただけるようにしている。トイレの表示や中庭の設置で一人ひとりの力を活かせる環境作りに努めている。		